

## 香港における公設市場の歴史的変遷と機能の複合化に関する研究

A STUDY ON THE HISTORY OF PUBLIC RETAIL MARKET AS  
PUBLIC FACILITIES COMPLEX IN HONG KONG

木下 光\*

Hikaru KINOSHITA

This study aims to clarify the process and the reason of the historical change of public retail markets in Hong Kong. Through analysis of the policy of market control by the government using Hong Kong Annual Reports from 1841 to 1997 and the survey of all public retail markets, three conclusions have been formulated.

- (1) Public health has been one of the important town planning issues from the beginning of Hong Kong as the British colony, and the government had used public retail markets to maintain public health till now. As a result, the number of public retail markets has increased to 108.
- (2) Public retail markets are classified into nine types and have changed to public facilities complex or market-housing complex through 6 stages historically.
- (3) Public retail markets have played the primary role to make a community in each district combining with public services or housing and changing their forms from temporary and low-rise to permanent and high-rise architecture.

*Keyword: Hong Kong, public retail market, hawker, public facilities, complex, typology*

香港、公設市場、露店商、公共施設、複合化、類型

## 1. 研究の背景と目的

香港は 1842 年にイギリス植民地 (1) となって以来、160 年余の短期間 (2) に人口数千人の漁村から急速に変貌を遂げてきた。香港は香港島、九龍・新九龍、新界の三つの地域によって構成され、新界はその大半が 1970 年代以降に開発されたニュータウンである。香港の特性は、以下の二点に集約される。一つはその面積約 1095 km<sup>2</sup> (1997) の 13.4% にすぎない市街化区域 147 km<sup>2</sup> に約 650 万人 (1) が住む極めて高密度な都市環境であり、香港島北岸や九龍・新九龍では、ha 当たり 1000 人以上にも及ぶ。二点目は土地利用において非住宅地域としての商業地域は市街化区域の 2 km<sup>2</sup> にすぎず、公共住宅団地を除いた市街地の多くは、住宅と商業、業務機能が混在した空間構成 (3) になっている。このような高密度かつ諸機能が複合化した生活環境を支えている施設の一つとして公設市場 (以下、街市) があり、石毛直道 (2) が「香港は市場都市である」と言い表しているように、街市は至る所に設置されている。そして、この市場建築は植民当初から都市計画上重要な公共建築として設置され、歴史的過程で常に更新され続けてきた。香港における街市に関連する研究としては、1970 年代において T.G.Mcgee (3) や F.Y.Tse (4) が主要な都市問題としての露天商を社会的に分析したり、1980 年代後半において、J.Smart (5) が露天商と香港社会と

の関係性を論じたりしているが、街市を都市計画的な観点から論じた研究はない。また、筆者はこれまで主に香港島北岸や九龍半島といった古い市街地にける街市が立地する地区の空間構成 (6) や香港政庁が街市や露店をどのように管理してきたか (7) を論じたが、香港全域に立地する街市やその建築レベルにおける機能構成の変化を論じるには至らなかった。そこで本研究では、香港に分布するすべての街市 108 箇所の調査 (4) から、街市の機能構成や地理的分布を把握するとともに、現在の形態に至ったプロセス及びその背景を歴史的に明らかにすることをその目的とする。

## 2. イギリス植民地当初の街市の成立とその政策

植民当初から第二次世界対戦前まで、街市に対して歴史的にどのような政策がなされたかについては、R. L. Jarman によって香港政庁の政策を年度毎に編纂した「Hong Kong Annual Administration Reports 1841~1941」(8) において、街市及び露天商 (香港では小販と呼ぶ、以下小販) の項目を分析し、以下のようにまとめた。

## (1) 法律の整備と衛生管理

外科医ウィリアム・モリソンは 1849 年、不衛生な街市をマラリアの発生源として、その迅速な改善の必要性を指摘している。

\* 関西大学工学部建築学科 専任講師・博士(工学)

Lecturer, Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Kansai Univ., Dr. Eng.

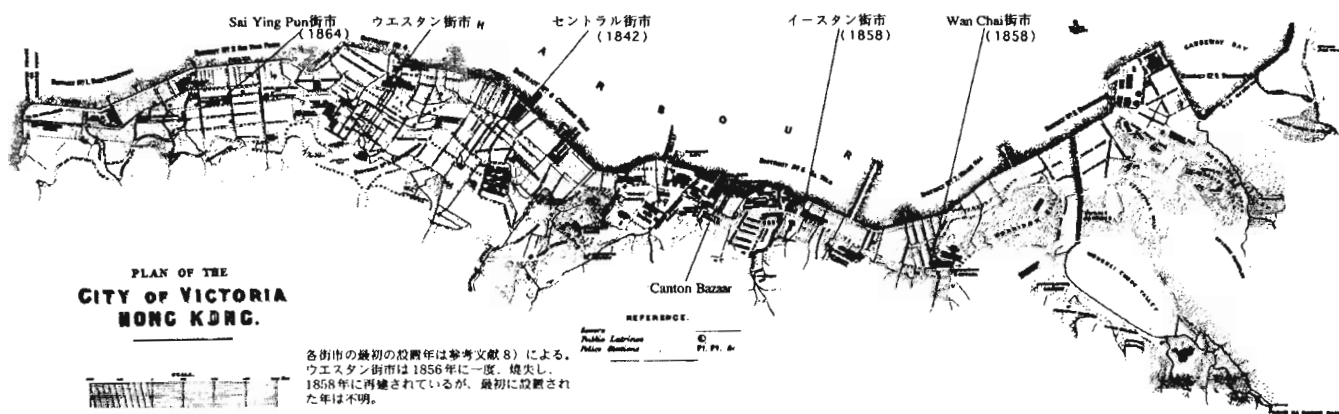


図1 19世紀末の香港島北岸（ビクトリア市、香港古地図資料に筆者加筆）

また、ウィリアム・モリソンは1881年・1896年には路上へのゴミの放棄といった中国人の慣習を問題とし、早急に西洋の衛生基準を導入する必要性があると論じている。1882年には衛生局の正式な設置及び衛生技師であったチャドウィックによる衛生調査及び改善案が提示され、1901年にもチャドウィックによる二度目の調査が行われている。これらの改善案は主に住宅に関する換気、採光、排水を示唆した。この調査によって1886年の公衆衛生法、1889年の建築法が次々に制定される。公衆衛生法と建築法は1903年に統合され、1935年に再度、別々の法律になるまで一体的な運用がなされている(5)。1887年に制定された牛の病気・屠殺場・街市に関する法律は、屠殺場から小売の街市まで生物、特に病原となりやすい肉類の流通管理(6)を可能にするものであり、一元的な衛生管理としての街市を法的に位置づけている。これは衛生管理が都市計画の主要な命題であり、街市もその主な対象であったといえる。

## (2) 平等な市場としての街市

1858年に街市法が制定された。それ以前は法律以上に東インド会社の権益を引き継いだ一部のヨーロッパ人、中国人社会特有の力関係や強固なコミュニティ(7)によって事が決せられていた。街市法の詳細な規定まではわかっていないが、この法律によって政庁は街市内の店舗に対する場所代の徴収を行い、歳入が増大するとしている。これは、一部の特権階級によって独占されていた利益を政庁の介入によってやや分配の方向に導くものであるということが記されており、平等な市場性を確保する狙いがあったと考えられる。

## (3) 地区の核となる公共施設

政庁は1842年、早速セントラル街市を建設している。イギリスが事実上香港を占領した翌年であり、市場管理は主要命題であった。1856年の報告書(8)では、街市はドックや道路、下水・排水施設といったインフラストラクチャーと並んで、重要な公共事業に位置づけられている。セントラル街市(写真1)設置後、街市は香港島北岸の中国人居住地区において次々に建設される。(図1)第二次大戦前において、30の街市(香港島:19、九龍:11)が少なくとも設置された。これは現在の約半数(2000年8月時点で香港島及び九龍にある街市は62箇所)であり、当時の人口は現在の約1/4であるから、街市が各地区を束ねる核であったと考えられる。



写真1 二度目のセントラル街市(1895年、現在の街市は1939年竣工)

## 3. 戦後の街市への政策転換

第二次大戦後から今日までの街市への政策は、香港政庁から毎年発行される年次報告書(9)における街市・小販に対する記述及びデータや1957年に出された小販に対する政庁報告書(10)を基にして分析を行った。

戦後すぐは、戦争による街市の荒廃や廃止によって、それらの再建や改善に多くの時間が費やされた。その一方、中国本土からの大量の難民によって、香港は急激な人口増加という事態が生じる。それは、日本による統治下において、160万人(1941)であった人口が推定で60万人(1945)まで減少した後、1947年には180万人、1961年には約300万人まで膨れ上がった。11)これによって、元手を必要とせず、比較的容易に始められる小販も増え、1957年には2.2万人の小販が報告されている。第二次大戦前には、小販を路上から除去するという方針が採られていたが、この方針を凍結し、小販は香港の生活における永続的特徴とし、容認するという政策転換(8)が1953年に行われている。戦前において、小販は「ライセンス譲渡は禁止で更新は1年。商いできる品物は野菜、果物、豆腐、粥、スープ、即席の食べ物で街市を中心とする四方の通りでは、街市で売られている商品は商ってはならない。」という規定がなされ、街市とは明確な区別がなされていた。しかし、小販への政策転換によって、小販は結果、1970年まで増え続け、登録された小販だけで4.4万人となった。このような戦前とは全く異なる都市環境の中で、街市という建築自体の位置付けも修正を余儀なくされる。それは以下の三点に集約される。

### (1) 街市の相対的地位の低下

1957年にそれまで肉類の小売は街市のみで行われていたのに対して、肉屋などの食料品を扱う商店(以下、商店)へのライセンス

発行が緩和され、街市の存在しない地区ではそれまでの街市の役割をこの商店に委ねようとする考え方が提示された。唯一の生鮮食料品を扱う独占的な小売市場であった街市は、商店と並列に近い関係まで相対的地位が下がったのである。この背景には人口の急速な社会的増加による都市の拡大(9)の速度に街市の整備が追いつけなかったという側面も考えられる。

## (2) 小販を収容する街市とモジュール化された街市

1963年には香港島・銅羅灣の Tang Lung Chau 街市において初めて、ストール(店舗)とは別に小販を収容する目的で小ストールがレイアウトされた。これは、競売される街市店舗の地位を路上の小販が脅かすことなく、商いをする上での平等性を維持する目的もあった。70年代に入ると小販用の小ストールだけでなく、料理屋台を収容する cooked food center(以下、料理屋台センター)を上階に持つ街市がつくられ始める。小販を街市に収容するという政策は建て替えのための土地取得の困難さから長期間を要した。このことは街市の店舗数と小販数からも明らかであり、街市の店舗数は約2200(1960年)から20年間で4300(1980年)まで増えたものの、小販数もその間に約2.2万から2.9万まで増えている。結果的に、街市の店舗数と小販数が1万程度で拮抗するには、1990年代初頭まで待たねばならなかった。このようにすべての小販を街市に収容することは不可能であるため、生鮮食料品を商う小販や屋台を街市へ、衣類や生活雑貨といった非食料品を扱う小販は香港政府によって都市計画上、路上に混乱をきたさない許可された通りでストリートマーケットとして残すという方針がとられた。また、スクウォッター地域における再定住政策において、早期に建設する必要性からモジュールを定め規格化された街市(10)が団地毎に供給された。

## (3) 公設市場から複合公共施設への展開

街市によって小販対策がとられる一方で、1970年にはすでに街市の敷地が持つ潜在価値、すなわち都市計画上、街市の立地は高い経済的価値を持ち、コミュニティ形成において極めて優れていることが指摘されており、それをどのように活かしていくかという検討

がなされた。計画立案及び敷地の準備、建設に時間を要したが、1979年に初めて行政機能、図書館、体育館等の公共施設を複合化した街市が建設された。80年以降、街市は市場機能とその他の都市機能を複合化して、土地の有効利用とコミュニティ施設への展開が計られた。その結果、建物はより高層・大規模化されることになる。

## 4. 街市の類型とその分布

### (1) 街市の類型

街市は現在(2000年8月時点)、香港全土に108箇所分布する。前章における街市に対する歴史的な政策の分析からも明らかのように街市が地域コミュニティにおいて果たす公共サービスは変化してきた。したがって、街市がどのような機能を有しているか、その機能がどのような空間的構成になっているか、さらにどのような建築的形態を帯びているかという視点から108の街市を以下の9つの型に分類することができた。

#### ①簡易街市(写真2):事例数7ヶ所

機能的には公設市場のみで、建築的に柱と屋根による半屋外的かつ簡易的な平屋である。店舗を集めるために場が提供されているといえる。第二次大戦前につくられた街市の多くは、この型であった。写真2は離島であるランタオ島の古い漁村に建つ Tai O 街市であるが、この型は小さな集落に多い。7事例は1970年代以前に建てており、規模も小さく、なかにはあまり機能していない街市もある。

#### ②市場単独街市(写真3):事例数11ヶ所

機能的には簡易街市と同じであるが、それに比べ規模も大きく、建築的に独立した2、3階建ての低層建築である。1930年代に建てられたセントラル街市、Wan Chai 街市のように古い居住地区に僅かに現存している一方で、この型はいわゆる一般的な公設市場といえるので、80年代以降でも小規模な地区で設置されている。

#### ③低層街市(写真4):事例数15ヶ所

建築的な形態は市場単独街市と同じであるが、市場機能に加え、屋上にポケットパークや児童公園、官吏用に住宅が設けられている街市である。時系列的にみると、Yau Ma Tei 街市のように、市場単独型の次につくられた形態である。新界では市場単独街市の屋上が



写真2 Tai O街市 (簡易型)



写真4 Yau Ma Tei街市 (低層型)

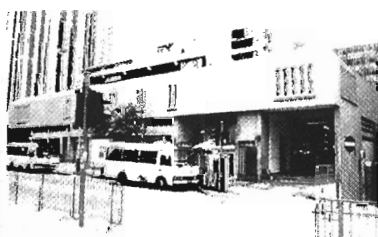


写真7 North Point街市 (公共併設型)



写真9 Tai Kok Tsui街市 (臨時型)



写真3 Wan Chai街市 (市場単独型)



写真5 Tung Yick街市 (住宅複合型)



写真6 Ngau Chi Wan街市 (公共複合型)



写真8 Sheung Fung St.街市 (特殊複合型)



写真10 Cheung Sha Wan街市 (屋台型)

オープンスペースとして活用されている事例が多い。

④住宅複合街市（写真5）：事例数7ヶ所

基本的には 2～3 層の基壇部分となる低層階に市場機能及び屋台を集めた料理屋台センターがあり、この基壇部分の屋上が住宅の屋上庭園及びエントランス階となり、タワー状の高層集合住宅が積層される。香港政府と住宅公団による協同プロジェクトである。低層階の基壇部分に、一部、公共機能が含有される事例も見られる。

⑤公共複合街市（写真6）：事例数27ヶ所

低層階に市場機能及び料理屋台センター、その上部に室内体育館や図書館といった公共機能や行政機能を積層した複合公共施設としての街市である。設置される地区によって、規模が異なり、3 階建ての低層タイプから 10 階建て以上の高層タイプまでであるが、外観からは複数の都市機能が含有されていることは判別できないような一体的な形態となっている事例が多い。

⑥公共併設街市（写真7）：事例数3ヶ所

公共複合街市とそのプログラムは基本的に同じであるが、市場機能に対して垂直に他の機能が積層されるのではなく、併設して置かれている。低層の建物であり、低層街市の発展した形であるとともに、設置年代からも公共複合街市の初期的な事例といえる。

⑦特殊複合街市（写真8）：事例数2ヶ所

複合型の特殊事例であり、市場機能の上部に駐車場が積層された街

市と Kimberley 街市のように敷地のレベル差を利用して入口を分けることで、民間ホテルが市場機能の上部につくられたものがある。

⑧臨時街市（写真9）：事例数9ヶ所

老朽化した簡易街市、市場単独街市及び低層街市を建て替える際に、暫定的につくられる臨時的仮設建築である。しかしながら、土地取得が容易ではないため、建て替えがなかなか進まず、Tai Kok Tsui 街市がそうであるように設置が短期間になるとは限らない。

⑨屋台街市（写真10）：事例数26ヶ所

路上での屋台が禁止（11）されることに伴い、その屋台を一カ所に集めた街市であり、前述した複合型の街市における料理屋台センターが単独で設置されている事例である。

住宅複合	1949	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
公共併設	0	0	0	2	0	0
公共複合	0	0	0	0	4	6
特殊複合	0	0	0	0	2	5
低層	0	1	1	3	0	0
市場単独	2	0	0	1	0	2
簡易	0	0	0	0	0	0
臨時	0	0	0	0	1	1
屋台	3	3	4	11	33	27
総数	4%	4%	5%	13%	41%	33%

注）上段：香港島 中段：九龍・新九龍 下段：新界

表2 年代・類型別の街市構成（左表）

表3 地域・類型別の街市構成

	香港島	九龍・新九龍	新界	総数
住宅複合	2	2	3	7%
公共併設	2	0	1	3%
公共複合	10	10	7	27%
特殊複合	0	2	0	2%
低層	5	3	7	15%
市場単独	5	2	4	11%
簡易	0	3	4	7%
臨時	2	4	3	9%
屋台	4	6	16	26%
総数	30	32	45	107

表1 全街市の類型一覧

番号	地域	地区	街市名	竣工年	階数	設備	店舗数	市場分類	屋台数	番号	地域	地区	街市名	竣工年	階数	設備	店舗数	市場分類	屋台数	
1	香港島	Western	Smithfield	1996	8	MCF	218	公共複合	0	63	新界	Kwai Tsing	Cheung Tai road C/F		1	×		屋台		
2			Shek Tong Tsui	1991	7	MF	153	公共複合	0	64			Ting Yi	1999	4	A	76	公共複合	×	
3			Centre street	1976	2	M	47	市場単独	0	65			Kwai Shun street C/F		1	×		屋台		
4			Sai Ying Pun	1999	3	A	102	市場単独	×	66			Ka Ting C/F		1	×		屋台		
5			Sheung Wan	1989	14	MCF	226	公共複合	0	67			Wing Fong street	1982	1	F	119	低層	×	
6		Central	Bridges street	1954	2	F	35	低層	×	68		North Kwai Chung	1984	4	F	228	公共複合	×		
7			Central	1939	3	F	263	市場単独	×	69		Tai Yuen street C/F		1	×		屋台			
8			Wan Chai	1934	3	F	141	市場単独	×	70		Wo Yi Hop road C/F		2	×		屋台			
9			Lockhart road	1987	13	MCF	171	公共複合	0	71		Tsuen Wan	1981	5	F	403	低層	×		
10			Bowlington road	1979	3	F	311	低層	0	72		Yeung Uk road	1990	6	MF	334	公共複合	×		
11	Eastern	Tung Lung Chau	1963	3	F	69	低層	×	73	Heung Che street	1972	3	F	227	市場単独	0				
12		Wong Nai Chung	1996	7	MC	71	公共複合	0	74	Chai Wan Kok C/F		1	×		屋台					
13		Causeway Bay	1995	2	MF	55	市場単独	×	75	Tsuen King Circuit	1990	2	MF	248	公共併設	×				
14		Electric road	1993	3	MF	118	公共複合	0	76	Sham Tseng temp.	1984	1	×	37	臨時	0				
15		Java road	1993	6	FC	199	公共複合	0	77	Sai Kung	1985	2	F	217	市場単独	×				
16		North Point	1970	3	F	42	公共併設	×	78	Tui Min Hoi	1983	1	F	34	市場単独	×				
17		Quarry Bay	1988	9	F	119	公共複合	0	79	Tai Wei	1985	1	×	202	住宅複合	×				
18		Sai Wan Ho	1984	3	×	MC	292	住宅複合	0	80	Sha Tin	1980	2	F	179	低層	×			
19		Shau Kei Wan	1973	3	F	90	低層	×	81	Fo Tan C/F East		1	×		屋台					
20			Lee Chung street C/F	1979	1	×		屋台	×	82	Fo Tan C/F West		1	×		屋台				
21			Kai Shing street C/F	1986	3	×		複合	×	83	Tuen Mun	Yan Oi	1983	1	F	108	低層	×		
22			Yue Wan	1979	5	F	434	公共併設	0	84		San Hui	1982	1	F	333	低層	×		
23			Chai Wan Temp.	1984	1	F	221	臨時	×	85		Kwong Choi	1982	2	F	84	低層	×		
24			Tin Wan	1979	3	F	189	低層	0	86		Hung Cheung C/F		1	×		屋台			
25			Aberdeen	1983	7	F	344	公共複合	0	87		Kin Wing C/F		1	×		屋台			
26			Yue Kwong road	1981	2	×	0	F	199	住宅複合	0	88	Tsing Yung C/F		1	×		屋台		
27			Nam Long Shan road C/F	1987	3	×		屋台	×	89	Lam Tai	1969	1	×	16	簡易	0			
28			Ap Lei Chau	1998	6	AC	61	公共複合	0	90	Kin Yip street C/F		1	×		屋台				
29			Apleichau west industrial C/F		1	×		屋台	×	91	Tai Tong road C/F		1	×		屋台				
30			Stanley Temp.	1999	1	F	24	臨時	×	92	Kik Yeung road C/F		1	×		屋台				
31	九龍・新九龍	Yau Tsim	Haiphong road temp.	1978	1	F	145	臨時	0	94		Tung Yick	1991	2	×	0	F	454	住宅複合	×
32			Kimberley street	1994	1	×	AC	19	特殊複合	0		95	Tai Kiu	1985	14	F	395	公共複合	×	
33			Kwun Chung	1991	8	MF	219	公共複合	0	96		Kam Tin	1964	1	×	43	簡易	0		
34			Yau Ma Tei	1957	3	F	150	低層	×	97		Hung Shui Kiu temp.	1986	1	×	224	臨時	×		
35			Mong Kok	Soy street temp. C/F		1	×		屋台	×		98	Lau Fau Shan	1984	1	×	25	簡易	×	
36		Monk Kok		1977	4	F	146	低層	×	99	Tai Po	Plover Cove road	1991	3	×	0	M	268	住宅複合	×
37		Fa Yuen		1988	14	MF	192	公共複合	0	100	Tai Po temp.	1983	1	F	414	臨時	0			
38		Tai Kok Tsui Temp.		1988	1	F	194	臨時	×	101	North	Shek Wu Hui	1994	6	A	393	公共複合	0		
39		Boundary street		1946	1	F	32	市場単独	×	102	Kwu Tung Market Shopping Center	1985	2	F	98	市場単独	0			
40			Sham Shui Po	Pai Ho street	1995	6	MCF	235	公共複合	0	103	Islands	Sha Tau Kok	未調査（許可地域）						
41	Tung Chau street temp.			1992	1	F	359	臨時	×	104	Mui Wo		1993	4	F	35	公共複合	×		
42	Po On road			1988	3	×	0	MF	733	住宅複合	0		105	Mui Wo C/F		1	×		屋台	
43	Cheung Sha Wan C/F			1982	1	×		屋台	×	106	Tai O		1989	1	×	26	簡易	×		
44	Lai Wan			1992	1	F	42	市場単独	×	107	Peng Chau		1998	3	A	43	低層	×		
45	Kowloon City		On Ching road Flower	1979	1	×	13	簡易	×	108	Cheung Chau	1991	3	F	240	公共複合	×			
46			Hung Hom	1996	7	MCF	229	公共複合	0		Cheung Chau C/F		1	×		屋台				
47			To Kwa Wan	1984	12	MCF	286	公共複合	0											
48			Kowloon City	1988	4	MF	631	公共複合	0											
49			Wong Tai Sin	Tai Shing street	1998	4	×	0	MCF	498	住宅複合	0								
50	Choi Hung road	1988		3	F	122	公共複合	0												
51	Sheung Fung street	1989		7	MF	79	特殊複合	×												
52	Yuen Ling	1972		1	×	34	簡易	×												
53	Ngau Chi Wan	1986		7	F	420	公共複合	0												
54	Ngau Tau Kok	1981		5	F	472	公共複合	0												
55	Yee On street	1999		2	A	65	低層	×												
56	Shui Wo street	1988		9	MF	308	公共複合	0												
57	Hip Wo street temp.	1996		1	×		臨時	×												
58	Tsui Yip C/F	1985		2	×		屋台	×												
59		Kwun Tong Ferry Concourse C/F		1984	2	×		屋台	×											
60			Cha Kwa Ling	1950	1	×	9	簡易	×											
61			Sze Shan street C/F	1980	1	×		屋台	×											
62			Tung Yuen street C/F	1984	1	×		屋台	×											

設備について

M：市場の空気浄化システム

A：市場の空調システム

C：屋台街の空調システム

F：機械換気

(注)

この調査は、2000年8月に、すべての街市をまわり行ったものである。

調査番号102のSha Tau Kok街市は、行くために許可を必要とする中国本土との境界に近い地域にあるために未調査。

住宅と複合化された街市に関して、階数は住宅部分をαとし、+の前に市場機能の部分の階数を表記。

屋台街市に関しては、設置年や屋台数は把握していない。

また、一部の臨時街市に関しては、同様である。

設備について  
M：市場の空気浄化システム  
A：市場の空調システム  
C：屋台の空調システム  
F：機械換気

（注）  
この調査は、2000年8月に、すべての街市をまわり行ったものである。  
調査番号102のSha Tau Kok街市は、行くために許可を必要とする中国本土との境界に近い地域にあるために未調査。  
住宅と複合化された街市に関して、階数は住宅部分をαとし、αの前に市場機能の部分の階数を表記。  
屋台街市に関しては、設置年や屋台数は把握していない。  
また、一部の臨時街市に関しても、同様である。

(2) 各類型の特徴(表1・表2・表3)

時系列に見ると、古い街市が非常に少なく、80年代以降の街市がその半数以上を占めており、公共複合街市が数多くこの20年間に設置されていることがわかる。これは街市への歴史的な政策でもいえるように、複合街市以前の簡易街市や市場単独街市、低層街市を複合街市へと建て替えた結果でもある。香港島、九龍・新九龍ではこの約20年間に街市数が40から62箇所へ増加した。また、1977年時点で40箇所の内、約半数の19箇所が築40年以上であり、約65%にあたる26箇所が閉鎖あるいは建て替えられている。街市の類型別で最も多いのは公共複合街市で27箇所あり、全体の4割を占める。次いで屋台街市で26箇所であるが、これは新九龍や新界の工業地帯に数多く設置され、特に新界ではその形態は基本的に規格化されている。簡易型は新界や九龍の市街地ではない地区に残っている事例であり、市場単独型や低層型では、香港島及び九龍・新九龍と新界では傾向が異なる。前者は更新されにくい中心市街地の街市が多く、その結果建物も古いのに対して、後者では設置年代が新しく、公共複合街市をつくる必要性のない地区における規格化された街市が多い。また、街市は小販を収容するという戦後政策から、大規模化の傾向に加え、設備偏重で自然換気から機械換気、さらには空調設備を持つ傾向にあり、このことからより建築としては閉じた空間になっている。

(3) 各類型の地理的分布(図2・図3)

住宅複合型、公共複合型、公共併設型、特殊複合型は108箇所の街市の中で39箇所存在し、その内訳は順に、7、27、3、2箇所である。地域別に見ると、香港島に14箇所、九龍・新九龍に14箇所、新界に11箇所とその差はあまり見られない。住宅複合街市は住宅団地との協同プロジェクトゆえに、建築規模が大きいため、香港や新九龍でも比較的郊外に位置している。公共併設型や特殊複合型はその数が少ないため、立地的特徴は特に言えないが、公共複合型は香港島に10箇所、九龍・新九龍に10箇所、新界に7箇所と香港のマクロな地域単位で均等に分布していることがわかる。さらに個々の地域内でみた場合、新界では沙田をはじめとする多くのニュータウンには存在しない一方で、九龍・新九龍と連続して形成し、ニュータウンの中でも高密度な環境である全湾や公共機能が一カ所にまとまりやすい環境である離島には設置されているというように場所性に即した対応がとられている。これに対して、香港島や九龍・新九龍のようなha当たりの人口密度が1000人を前後するような高密度な居住環境において、公共複合型は約1~2km置きに、すなわち地区毎に設置され、さらにその他の街市を入ると数百m置きに公設市場が比較的等しく分布しているという構成になっている。これは生鮮食料品や日用品を扱う公設市場としては数百m規模の街区、公共機能や行政サービスが行われるコミュニティ施設としては約1km規模の地区に公共複合街市を設置し、生活者の公共福祉の向上が図られているといえるだろう。また、市場単独型や低層型は香港島と新界にそれぞれ10箇所、11箇所と多い。これは同じような高密度な古い市街地にもかかわらず、九龍・新九龍では、市場単独型や低層型から公共複合型に移行している傾向が見られるのに対して、香港島は更新が必ずしも進んでいない。そして、その代わりに九龍・新九龍では簡易型や臨時型の状態のままである

街市が香港島に比べて多い。これに対して新界は1970年代以降のニュータウン開発であるため、街市のほとんどは更新されておらず、ニュータウン毎にそれぞれの類型が同じような構成で設置されている傾向が強い。また、香港島や九龍・新九龍と新界の人口はほぼ同じであるが、屋台街市を除いた街市数には大きな差があり、新界の方が13箇所も少ない。これは新界では小販を収容する必要性がさほどなかったことによるものであり、そのため、料理屋台センターが他の機能と一緒にすることはなく、屋台街市として単独で建つケースが多い。香港島や九龍・新九龍では土地不足から高架下を利用する事例もあり、空間の高度利用が大前提となっている。また、屋台街市が16箇所と新界に多いのは、屋台街市が工業団地周辺の路上に多かった料理屋台(小販)を収容する目的で街市を設置されたからであり、このような背景は香港島東岸や新九龍東部にもあてはまることである。

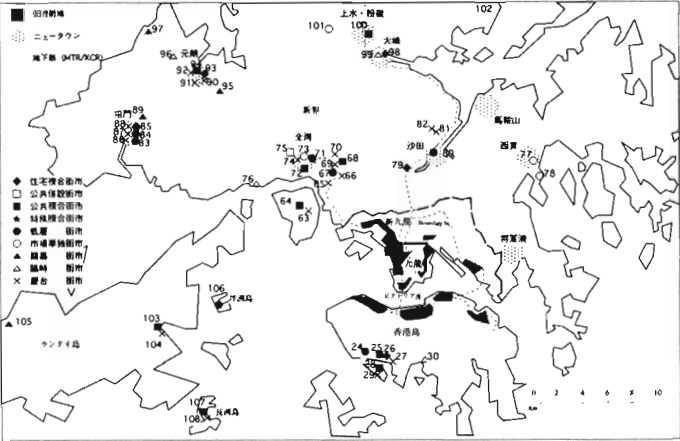


図2 香港島南岸と新界に立地する街市

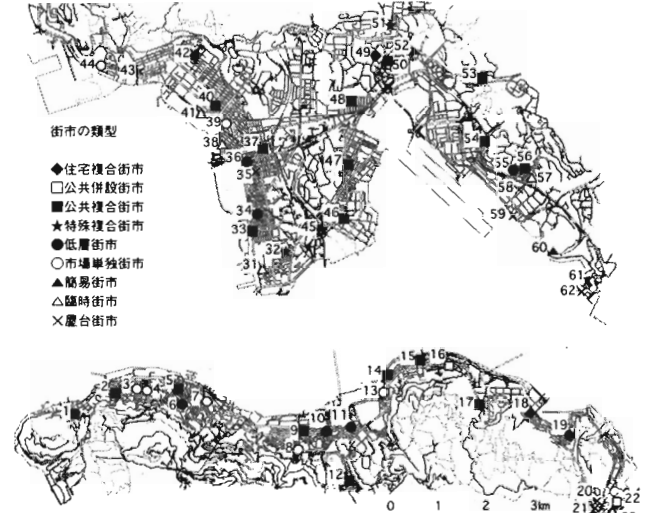


図3 香港島北岸と九龍・新九龍に立地する街市

(4) 複合型の特徴: 街市に付加される都市機能

表4は9種類中、複合型といえる4種類の街市の事例において、実際どのような機能が公設市場に付加されているかを示している。市場機能に対して、付加されている機能は屋台を収容した料理屋台センター、文化施設、スポーツ施設、教育施設、屋上庭園、行政施設、住宅、駐車場、その他に大別される。文化施設は劇場やギャラリー、音楽練習室、ダンスルーム、多目的な活用がなされる活動室



や講義室などがそれにあたる。スポーツ施設は室内体育館であり、これに加えて卓球やスカッシュコート専用のスペースが用意されるのが香港の特徴である。室内体育館では主にバレーボール、バスケットボール、バドミントンが行われる。文化施設やスポーツ施設は有料であり、予約制で運営されている。教育施設は図書館であり、視聴覚専用の図書館や子供のための自習室や遊戯室がしばしば設けられる。行政施設は基本的にこのような文化・教育行政を地区毎に管轄する文化・娯楽署や街市を管轄する公衆衛生署が置かれ、行政面からも地区の活動を支援する体制がとられている。住宅は住宅公団の集合住宅であり、低層街市にみられたような官使用住宅ではない。これら施設への動線は、市場機能や料理屋台センターとは完全に分離されている。その他として、駐車場、老人福祉センター、議会、職業訓練所がある。

付加される機能の中で、最も一般的なのが室内体育館（22 箇所）と図書館（25 箇所）であり、住宅複合を除いた複合型街市の 7 割前後に設置されている。これらは比較的、子供による利用頻度が高い。その背景として、香港の高密度な都市環境や限られた住宅規模からまとまった子供のための空間や施設が不足しているため、複合型街市によって、積極的にそのような都市施設の充実が図られようとしていることが考えられる。また、屋上庭園も同じ背景から地上になかなか設けることができない地区単位の広場としてつくられているが、調査における印象ではあまり利用されているとはいえない。

以上の考察から街市は、その内包する機能や形態から 9 つにタイプに分類でき、歴史的に下記の 6 段階を経て、公共複合街市あるいは住宅複合街市が近年、典型的な建築プログラムになっている。

第一段階：簡易街市                      第四段階：公共併設街市  
第二段階：市場単独街市              第五段階：臨時街市  
第三段階：低層街市                    第六段階：公共複合・住宅複合

・特殊複合街市

第一段階から第二段階においては、より独立した建物への変化で

あるのに対して、第二段階から第三段階においては機能的な変化である。第三段階から第四段階になると、付加される機能の公共性が高まるが、ここまではその形態は比較的似ている。第五段階を経て、第六段階である複合型街市に至るが、ここでは付加される機能も増えるとともに、それ以前の段階の型に比べて、まったく異なる形態へと変化している。この傾向は、香港島や九龍・新九龍において顕著であり、新界は香港島や九龍・新九龍のように土地が不足し、かつ高密度な都市環境ではなく、そのほとんどが 1970 年以降に開発されたニュータウンであるため、ばらつきがみられる。また、特殊複合型は事例が少なく、付加される機能も駐車場や民間ホテルしかないが、これは権利形態や管理・運営上の制約を越えれば、様々なビルディングタイプが生まれる可能性を秘めているといえるだろう。

5. 結論と考察

街市への歴史的政策及び街市調査の分析から街市が現在の形態に至ったプロセスとその背景が明らかになった。

(1) 街市の歴史的変遷

当初、通風を重視した簡易かつ半屋外的な建築で、生鮮食料品を商うという機能のみを有していた街市が高層かつ恒久的な建築で、様々な公共機能や住宅と従来の市場機能が複合化する街市へと六つの段階、9 つの型を経て変遷してきた。その際、恒久的な建築物としての変化がまずおこり、その後公共機能の平面構成的上の併設を経て、断面構成上の複合、さらには高層化へと導かれたといえる。

(2) 公衆衛生計画の柱としての街市

街市は歴史的に 108 箇所までその数を増やし、街区単位で街市が設置されるに至っている。また、街市には公衆衛生を管轄する行政部署が置かれ、適切な対応がとれるようになっており、公衆衛生を西洋的な基準で維持するという植民都市の当初の概念は、永続的に守られ、より強化されている。

(3) コミュニティの核となる公共建築としての街市

第二次大戦後、人口急増を背景とする膨大な数の小販とそれらが群をなすストリートマーケットの混乱によって、都市の公共空間を一定の環境に維持するという観点から、小販を収容するという目的のために街市の建て

表 4 複合街市が有する都市機能

場所	街市名	竣工年	階数	市場分類	C/F	付加される都市機能						スポーツ・教育			屋上庭園	行政機能	住宅	駐車場	その他
						劇場	展示室	活動室	図書室	音楽室	体育館	図書館	児童遊具室						
香港島																			
16	North Point	1970	3	公共併設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
22	Yue Wen	1979	5	公共併設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
25	Aberdeen	1983	7	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
9	Lockhart road	1987	13	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
17	Quarry Bay	1988	9	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
5	Sheung Wan	1989	14	公共併設	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
2	Shau Tong Tai	1991	7	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
14	Electric road	1993	3	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
15	Jaffe road	1993	6	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
1	Smithfield	1996	6	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
12	Wong Nai Chung	1996	7	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
28	Ap Lei Chau	1998	6	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
26	Yue Kwong road	1981	2+3	住宅複合	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
18	Sai Wan Ho	1984	3+3	住宅複合	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
九龍・新九龍																			
54	Ngau Tau Kok	1981	5	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
47	To Kwa Wan	1984	12	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
53	Ngau Chi Wan	1986	7	公共併設	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
37	Fa Yuen	1988	14	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
48	Kowloon City	1988	4	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
50	Choi Hung road	1988	3	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
56	Shui Wo street	1988	9	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
33	Kwun Chung	1991	8	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
40	Pai Ho street	1995	6	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
46	Hung Hom	1996	7	公共併設	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
42	Po On road	1998	3+2	住宅複合	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
49	Tai Shing street	1998	4+3	住宅複合	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
51	Sheung Tung street	1999	7	特殊複合	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	
32	Kimberley street	1994	1+3	特殊複合	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	民衆ホテル	
新界																			
75	Tsuen Keng Circuit	1990	2	公共併設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	プール	
68	North Kwai Chung	1984	4	公共併設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
94	Tai Kiu	1985	14	公共併設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	議会	
72	Yeung Uk road	1990	6	公共併設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
107	Chung Cheu	1991	3	公共併設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
103	Mai Wo	1993	4	公共併設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
100	Shek Wu Hui	1994	6	公共併設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
84	Ting Yi	1999	4	公共併設	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
79	Tai Wai	1985	1+3	住宅複合	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	
93	Tung Yick	1991	2+3	住宅複合	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	
98	Plover Cove road	1991	3+3	住宅複合	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
注：活動室：音楽練習、アートスタジオ、ダンス室などを含む多目的利用。図書館は自習室、児童図書館、児童図書閲覧室、図書室、体育館はバスケットコート、卓球室を含む。																			

注1. 活動室、音楽練習室、アートスタジオ、ダンス室なども含む多目的利用。図書室は自習室、児童図書室、視聴覚図書室を含む。体育館にはスカッシュコート、卓球室を含む。

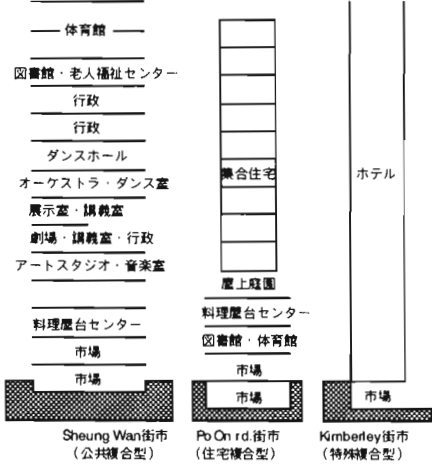


図4 複合型街市の断面ダイアグラム事例

替えが進む。路上管理が地区単位で一定の成果を得ると、80年代からの都市計画の施策から、図書館や体育館、劇場に代表される公共施設をどのように充実させていくか、すなわち文化・教育施設の不足を解消するという目的が加わる。元来、生鮮食料品を分配するその機能から、地区の核となり得る場所にあった街市の優れた立地性と香港の慢性的な土地不足から、街市はさらに建て替えられる。この傾向は市街地形成が古く、高密度な居住地域である香港島北岸や九龍・新九龍において強い。こうして、街市は屋上庭園というオープンスペースをも確保しながら、市場機能の上部に公共機能が重ねられる香港特有の高層複合建築へと発展してきた。街市は高度に複合化された公共施設群を有する公共建築へとその形態を変化させながら、コミュニティ形成の核として役割を果たしてきたといえる。

#### (4) 複合型街市の可能性と課題

これまで街市は香港政庁営繕部のみで設計されてきたため、比較的類似したビルディングタイプになる傾向があった。1999年に竣工した Ting Yi 街市(写真 11)は、営繕部と香港の民間の設計事務所が協同して行った最初のプロジェクトであり、これまでの事例とは異なる新しい形態を示している。また、一事例にすぎないが、植民当初につくられたウエスタン街市(図 1 参照)は、建築家タオ・ホーによって商業建築へと再生利用されている。(写真 12)その一方で、複数の公共機能が複合化されながら、その施設を維持管理する政庁の各部署間の責任区分や予算がそのまま建築計画に反映する(12)ため、複合化とはいいいながら各階毎に異なる機能が入り、それが積層される単純な構成になっている。その結果、異なる機能間の関係性は希薄にならざるを得ない。また、空調設備の充実が計られているため、元来、ストリートに展開したような、あるいは低層建築であった街市に見られたような街市の内部空間と都市空間が連続するといった空間構成とは、相反する傾向が強化されつつある。そのため、歴史的な都市形成や高密度な都市環境といった香港特有の文脈から生まれた希有の公共建築である複合型街市は、機能的にコミュニティを束ねていく可能性を秘めている一方で、空間的には街区においてやや孤立した感が否めない。施設を管理・運営する担当部署毎に独立するのではなく、より総合的な行政の対応が可能であれば、香港市民にとって、空間的にも魅力的な都市施設になり得るし、それは日本における市場の位置付けや扱い方を考えていく上でも、きわめて示唆的である。



写真 11 Ting Yi 街市



写真 12 ウエスタン街市 15)

#### 謝辞

本研究の一部は、平成 12 年度関西大学学術研究助成基金(奨励研究)によって得られた成果である。ここに謝意を表する。

#### 補注

(1) 1842 年に南京条約によって香港島の割譲が決まり、1860 年には北京

条約で九龍の一部を割譲、1898 年には新界の租借が決まる。1997 年、新界の租借期限である 99 年を迎えた年、香港は中国に返還され、香港特別行政区として、イギリス植民地での実状を 50 年間変えないと言う一国二制度によってその主権はイギリスから中国に移った。

(2) 第二次大戦直後の 1947 年では、180 万人強であった人口が、戦後約 50 年間で 3.6 倍、470 万人の急激な人口増加である。これは中華人民共和国成立や文化大革命による多くの難民が香港に流入するという社会的な増加も大きく影響している。これによって、戦前に見られたようなコロニアル様式の建築による町並みはほとんど、中層あるいは高層建築に建て替えられ、戦前の都市空間を常に更新する形で拡大、成長を遂げてきた。

(3) 各地区の土地利用を誘導するマイクロゾーニングプランでは、住宅地域においても、住宅専用というような指定はなく、様々な機能が許可されている。また、1972 年から施行されている建築法では、10m 以下の非住宅機能であれば建ぺい率を 100% まで緩和すると規定されている(12)。

(4) 2000 年 8 月 23~31 日に齋藤み穂、竹森紘臣、松村直哉、清水敦子、辻岡美穂(当時、関西大学大学院修士課程)の協力を得て、すべての街市をまわり、実態調査を行った。行った調査内容は街市の地域的な立地及び配置、その建物に有する機能の平面及び断面構成、外観写真の撮影であり、これらの項目をすべての街市で同様に行い、調査シートを作成した。

(5) 公衆衛生法と建築法が問題視したものは、住戸を数分割して複数の世帯が高密度に居住する(これをキュービクルと香港では呼ぶ)ことによる住環境であった。そこで、キュービクル自体の禁止や面積や容積による最低限の空間の確保、建物背後のオープンスペースの確保、あるいは階高や建物高さの規制等がなされた(13)。

(6) 1903 年の政庁による街市に関する記述では、「街市において公衆衛生法及び建築法に基づいて建設及び管理されている屠殺場で処理された食肉以外、売買してはならない。」とされている(14)。

(7) 香港は主に中国からの移住者によって形成された都市であるため、地縁、血縁による相互扶助、自衛自助的な組織である幫やコミュニティとしての地区共同体である街坊といった組織が大きな影響を持っていた。

(8) 1947 年には場所に固定する露店と行商する小販という大別がなされていたが、1954 年には行商小販のライセンスを無制限に発行する措置がとられ、主要道路以外であればどこでも商いが可能になった。

(9) スクウォッター地域の大火への対応から、1953 年に公共住宅を供給する Housing Authority が設立される。この時期、年率 5% 余りと植民当初や戦後といった特殊な時期を除いて最も高い人口の伸びを示している。

(10) 公共住宅団地につくられた規格化された街市は、現在、住宅公団(Housing Authority)によって、管理・運営されており、本研究で扱っている公設市場とは異なる範疇であるため、調査及び類型の対象外とした。

(11) ライセンスの新規発行が停止され、1983 年以降は、これらの小販を減らすため、ライセンスの買い取り制度が促進されるようになった。政庁によって許可された指定通りにおいて、政庁が決めた形の場所に固定される露店による小販のみが現在、許されている。

(12) 2000 年 8 月に行った香港政庁営繕部に対するインタビューから。

#### 参考文献

- 1) Census and Statistics Department, Hong Kong SAR: Hong Kong Annual Digest of Statistics, 1997
- 2) 石毛直道、ケネス・ラドル: アジアの市場-歴史と文化と食の旅、くもん出版、1992
- 3) T. G. Mcgee, 「Hawkers in Hong Kong: A Study of Planning and Policy in a Third World City」, Centre of Asian Studies University of Hong Kong, 1973
- 4) F. Y. Tse, 「Street Trading in Hong Kong」, Social Research Centre The Chinese University of Hong Kong, 1974
- 5) Josephine Smart, 「The Political Economy of Street Hawkers in Hong Kong」, Centre of Asian Studies University of Hong Kong, 1989
- 6) 木下光他 1 名: 街市(Retail Market)を中心とする香港の空間構成に関する研究、都市計画論文集 29、pp193~198、1994
- 7) 木下光: 香港における市場空間の管理政策の歴史的変遷に関する研究、都市計画論文集 33、pp403~408、1998
- 8) R. L. Jarman: Hong Kong Annual Administration Reports 1841~1941, Archive Editions, Hobbs the Printers of Southampton, 1996
- 9) Urban Council: Hong Kong Annual Report (1946~1996), The Government Printer
- 10) Urban Council: Hawkers-a report with policy recommendations, The Government Printer, 1957
- 11) Census and Statistics Department: Hong Kong 1991 Population Census Basic Table for Tertiary Planning Units Hong Kong Island, Kowloon & New Kowloon, New Territories, The Government Printer, 1991
- 12) Town Planning Office Buildings and Lands Department: Town Planning in Hong Kong, The Government Printer, 1990
- 13) E. G. Pryor: Housing in Hong Kong, Oxford University Press, 1983
- 14) Paul M. Hodgson: REGULATIONS OF HONG KONG, The Government Printer, 1915
- 15) Chung Wah Nan: CONTEMPORARY ARCHITECTURE IN HONG KONG, Joint Publishing(H.K.), 1989

(2002 年 4 月 17 日原稿受理、2002 年 10 月 30 日採用決定)